歴史ガイド かしわ

柏市教育委員会

歴史ガイドかしわ

柏市教育委員会

一二　手賀沼の教員殉難　―水難史上最大の悲劇―

「ああ魔の手賀沼　十八の生霊を呑む」

太平洋戦争末期の昭和一九年に起きた女子教員たちの水難事故は、長い手賀沼の歴史の中でもとくに悲しい出来事として記憶されています。長引く戦争の中で男子教員の多くは戦地に赴き、教室で子供たちに教えていたのは若い女の先生たちでした。

昭和一九年一一月二二日、東葛飾郡の教育会主催による研修会が実施されました。午前中に湖北国民学校（現在の湖北小学校）、午後に手賀東部国民学校（同手賀東小学校）を会場として、先生方の研修を行う予定でした。湖北での研修を終えた参加者達は三艘の船に乗り、対岸の手賀村へと乗り出したのです。事故の様子は次のようなものです。

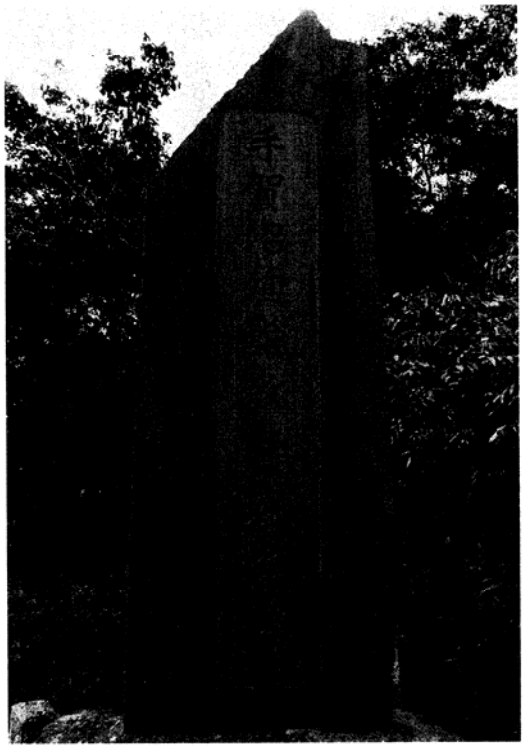
「三艘で二〇名以上の乗船は無理であるにもかかわらず、学校関係者四四名を中心に五〇名を乗せていた。大勢が乗れるようにと船はそれぞれ縄で繋ぎ、しかも船頭は二人だけであった。船頭は無理な乗船を制止したが、押し切られたという。はじめの内は穏やかな天気で、一同はのんびりとあたりを眺めながら談笑していたが、対岸までもう少しという時、突然強風が吹き出した。激しい風波による浸水が船を襲い、たちまち船内は悲鳴と大混乱に包まれた。皆は濡れまいとして船の片側に移動したため、バランスを失ってまず一番風下の船が沈み、縄で繋がれていたため二番船・三番船も次々と転覆していった。初冬の沼の

水は凍えるように冷たく、その上モンペ姿の冬支度では泳ぐこともままならず、先生方は次々と力尽きていった。」

懸命の救出活動も空しく、乗船者五〇名のうち一八名の犠牲者を出すと言う大惨事となったのです。当時の新聞は「視察会の女教員一行、伝馬船が転覆遭難、ああ魔の手賀沼　十八の生霊を呑む」と大きく報じました。犠牲となったのは校長・教頭・国民学校生徒・元教員・幼児の各一名のほか一三名は若い女子教員たちで、それぞれに地元の学校教育に情熱を注いでおられた人々でした。家族はもとより、東葛地区の教育に与えた衝撃は計り知れないものがありました。事故現場を見下ろす我孫子市中里の高台に建つ殉難記念碑には、「教育は国家発展の源泉にして、智徳を啓発成就するを以ってその大本となす。…」と刻まれています。

昔から手賀沼は漁業・鴨猟・干拓・水害と、周辺の人々に大きな影響を与えてきました。人や物を運ぶ重要な水路として、村々には渡船場が設けられていましたが、それだけに事故もまた多かったのです。昭和一七年九月二一日には渡船が転覆し、手賀村片山の野菜行商人六人が死亡する事故も起きるなど、手賀沼では明治以降だけでも二〇〇人以上の犠牲者を出しているといわれています。

（文化課）



殉難教育者之碑